

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立蒲田高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(教務主任兼務)=事務局長
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長2名、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主幹教諭(生活指導担当)、主任教諭（進路指導担当）、保健主任 計8名
- (4) 協議委員の構成
蒲田本町一丁目町会長、NPO 法人ピボットフット理事長、学校法人片柳学園法人本部総務部総務課次長、蒲田東特別出張所長、大田区立蒲田中学校長、同窓会副会長、PTA 会長、元教育庁教育監（大学理事）、元蒲田高校校長
計9名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
第1回 令和6年6月14日（木）内部委員8名、協議委員6名
協議委員委嘱、評価委員選出、学校経営計画、今年度の取り組みについて説明、意見交換
第2回 令和6年10月10日（木）内部委員8名、協議委員8名
授業公開、これまでの教育活動に関する報告、協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
第3回 令和7年2月17日（木）内部委員8名、協議委員9名
学校評価アンケートの結果、これまでの教育活動に関する報告
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
第1回 令和6年10月10日（木）内部委員2名、協議委員2名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
第2回 令和7年2月17日（木）内部委員2名、協議委員2名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学習指導」「生活指導」「進路指導」「教育相談・美化指導」「地域との連携」について具体的な改善を図ることができるよう、評価項目を順に並べ、実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期等
 - ・11月 全校生徒 回収率： 95.9%
 - ・11月 保護者全員 回収率： 68.4%
 - ・11月 地域・住民 回収率： 55%
 - ・11月 教職員 回収率： 100%
- (3) 評価結果の概要
(ア) 学習指導
「本校の授業は生徒の学力に合わせて工夫されていると思うか」については、1年生が約9割、2、3年生は9割以上で肯定的な回答をしており、ICT機器を活用した授業づくりやユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業実践が全校的取組となってきた結果と考える。
また、このことが「学び直しにより基礎学力が定着していると思うか」の肯定的数値が上昇したと関連していると考えられる。一方で、「自分から意欲的に学習に取り組んでいるか」という意欲的な学習への取組については、生徒自身の肯定的回答率が下がっており、生徒の意欲喚起を図っていく必要がある。特に、昨年度までの1年生は9割弱の肯定的回答に対し、現1年生の肯定的数値が7割弱のため、各学年にあった丁寧な取組が必要と考える。
「多様な進路希望の生徒に個別の指導や補修等を実施してきめ細かく手厚い学習指導ができているか」や「授業規律が守られ、落ち着いた学習環境が整えられているか」については、生徒と、保護者、教員との回答に乖離が見られる。教員については「きめ細かく手厚い学習指導」や授業規律が守られている「学習環境」についての共通認識が必要であると考え。共通認識のもと、学校から保護者に対して、

日々の教育活動をわかりやすく情報発信し、周知を図っていくための改善を行っていく。

(イ) 生活指導・学校生活

「本校の段階的な指導は授業規律の確保、服装や身だしなみの指導に効果的だと思うか」については、保護者の肯定的回答率が下がり、肯定的回答率が上昇している生徒、教員との乖離が見られる。生徒への段階に応じた指導に協力いただくためにも、本校の指導内容については、周知の方法等、改善に努める必要がある。

「本校の学校行事が生徒の成長につながっているか」については、3者ともに肯定的回答率が上がっており、充実した学校行事を行うことができた結果と判断する。

「本校の部活動は活発だと思うか」については、3者ともに肯定的回答率が下がっている。次年度に向けて、生徒が期待する部活動を明確にするとともに、教員の指導体制等を整えるところから改善を図っていく必要がある。

「体罰のない学校にしようと思めていると思うか」については、生徒の肯定的回答率は上がっている一方で、保護者からの肯定的回答率は下がった。「いじめのない学校にしようと思めていると思うか」についても、保護者からの肯定的回答率は下がっている。体罰の根絶やいじめ防止に関する取り組みを継続し、日頃の教育活動の様子等を保護者にお伝えすることができるよう、また、個々の相談に適切に対応することができるよう、改善を図っていく必要がある。

(ウ) 進路指導

「情報提供や進路ガイダンス等が充実していると思うか」「生徒の個性・適性に合った進路指導がなされていると思うか」「進路未決定率を減らす様々な取組がなされていると思うか」とともに、生徒の肯定的回答率が上がっている一方で、保護者、教員ともに肯定的回答率は下がり、乖離が見られる。系統的で組織的なキャリア教育を推進するとともに、その具体的な進路指導内容は保護者にも伝わるように情報発信等の工夫を図らなければならない。

(エ) 教育相談・美化指導

「面談週間や1年次の2人担任制、養護教諭の2名配置などで心のケアが充実していると思うか」「美化・清掃の指導を行い、学習環境整備に努めていると思うか」「ともに、生徒、保護者の肯定的回答率は上がっている。今年度はスクールカウンセラー（SC）、ユースソーシャルワーカー（YSW）ともに本校への配置人数が増え、相談体制の充実を図ることができたことが大きい要因と考えられる。次年度も外部人材を活用し、教育相談体制の充実を継続する。

(オ) 地域との連携

今回の回答には、「生徒に会う時間がないためによくわからない」や「保護者ではないのでホームページを見ることはない」、「あまり関心を持っていなかったことに気付かされた」という意見が寄せられ、回答できないことによる無回答が増えた。

地域の行事等に関わるとともに、学校公開に関する情報提供等も積極的に行い、地域の中でも生徒を育てていただけるように改善を図っていく。

4 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
9	0	0	0	0	0	0

5 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人

【成果】 出席無し

6 その他

特になし